令和９事業年度第２回　SusHi Tech Tokyo 実行委員会

１　日　　時：　令和８年９月 24 日（木）16:00～17:00　【オンライン開催】

２　出 席 者：　東京都副知事　宮坂委員長
東京都スタートアップ戦略推進本部本部長　佐久間副委員長
一般社団法人日本経済団体連合会　小川委員（代理出席・近藤氏）
公益社団法人経済同友会　齋藤委員
一般社団法人新経済連盟　関委員（代理出席・堀氏）
東京商工会議所　小林委員（代理出席・渋谷氏）
一般社団法人スタートアップエコシステム協会　藤本委員
一般社団法人スタートアップスタジオ協会　佐々木委員
一般社団法人スタートアップ協会　砂川委員

３　議事概要：　①宮坂実行委員長より開会挨拶
②事務局より報告事項についての説明
・SusHi Tech Tokyo 2027 についての進捗状況
③質疑応答
・SusHi Tech Challenge について、応募企業数に比べて表彰や発信の対象が限られているため、より多くのスタートアップが注目される仕組みを設けてはどうか。
→多数の応募企業の中から選考を行い、最優秀賞に加えてコーポレートパートナー賞も授与している。優れたスタートアップの発信について、事業者とも検討していく。
・スタートアップにとって、価値あるイベントである必要がある。
→SusHi Tech Tokyo は都市課題の解決をテーマとするイベントであり、スタートアップ、企業、行政など多様な主体が集う場として発展させていきたい。
・世界的なイベントを目指すためには、有望なスタートアップや大企業などを戦略的に招致していく必要があり、どのような方法が考えられるか。
→魅力的な出会いや機会を提供するなど、メリットを明確に作ることで来てくれるようにする仕組みづくりが重要だと考える。
・アンケートに加え、出展者や未参加企業等への直接的なヒアリングを実施し、ニーズを把握すべきではないか。
→シティパートナーやコーポレートパートナーなど既に実施しているものもあるが、参加していない層も含めてニーズ把握の手法を検討していく。
④事務局より審議事項についての説明
・SusHi Tech Tokyo プログラムディレクターの設置について
⑤審議
・プログラムディレクターは公募ではなく、事務局から候補者へ依頼

する形か。

→公募は行わない。実行委員の皆様からの推薦等もあれば、参考にさせていただきながら事務局で選定する。

・プログラムディレクターと事務局との役割分担や権限の範囲を明確にすべきではないか。

→登壇候補者への打診等を担ってもらい、その後の調整は事務局が引き継ぐ。

・報酬額だけでは十分な動機付けにならない可能性もあり、ある程度の自由度もあった方がよいのではないか。

→報酬は都の基準に従うが、企画への参画意義を踏まえていただいた上で一定の裁量を確保することで協力を得たいと考えている。

・提示いただいた候補者は適任である。また、人が集まってくる要素として、海外の成功事例を分析するとよい。

・登壇者を決めていくにあたり、コミュニケーションを丁寧に行っていくことが重要。

※可決

⑥佐久間副委員長より閉会挨拶